

Docu-SEの更新・新設一覧

目次

バージョンアップ【時期】	ページ
(Ver. 1.1-L09) ⇒ (Ver. 1.1-L10) 【2022年 6月】	p. 1
(Ver. 1.1-L08) ⇒ (Ver. 1.1-L09) 【2021年 2月】	p. 1
(Ver. 1.1-L07) ⇒ (Ver. 1.1-L08) 【2020年 2月】	p. 2
(Ver. 1.1-L06) ⇒ (Ver. 1.1-L07) 【2019年 9月】	p. 2
(Ver. 1.1-L05) ⇒ (Ver. 1.1-L06) 【2019年 2月】	p. 2
(Ver. 1.1-L04) ⇒ (Ver. 1.1-L05) 【2018年 7月】	p. 2
(Ver. 1.1-L03) ⇒ (Ver. 1.1-L04) 【2018年 1月】	p. 3

Docu-SEの主な更新一覧 (Ver. 1.1-L09⇒Ver. 1.1-L10)【2022年6月】

項番	項目	主な更新内容	
1	全体	(1)	各プログラムにおいて、最新OSに対応するため、開発環境を最新バージョンに変更しました。それに伴い、ランタイム実行環境である .NET Frameworkのバージョンを4.5.2に変更しました。
		(2)	JRSNAP (Ver. 1.1-L10) に対応するために、JRSNAPの指定フォルダ等を改修しました。
2	Batch	(1)	応答塑性率 (μ) について、Aspect-SEを連携したJRSNAPの結果は、Docu-SEで表示される結果と一致しない不具合を修正しました。
		(2)	橋台構造物の応答塑性率 (μ) を算出する際に用いられる所要降伏震度スペクトルは、抗土圧橋台用(耐震標準 付属資料11-1)ではなく、橋梁および高架橋用(耐震標準 付属資料10-3)のものを使用した不具合を修正しました。
		(3)	複数ケースの部材がせん断破壊モードと判定された場合は、内部で「全ケース」に対するせん断耐力の照査を実施しましたが、「該当ケース」だけを対象とする仕様に変更しました。
		(4)	設計総括表 (M- ϕ) 部材において、応答曲率 ϕ の値が小さい場合、小数点以下ラウンド処理の違いによって、ピックアップしてきた関連結果はJRSNAPと一致しない仕様を変更しました。
		(5)	設計総括表における鋼部材の損傷レベル1の制限値 (ϕ_{yd}) の値が (ϕ_{Mpd}) の値になっていた不具合を修正しました。
3	Detail JRSNAPとの連携	(1)	【Output-JR側の改修】 データ確認図において、地盤変位量を作成する機能を新設しました。
		(2)	【Output-JR側の改修】 データ確認図において、Docu-SE用の節点番号と要素番号を同一帳票に出力する際に、断面詳細図で断面番号3のみ出力されなくなり、最終頁が空白になる不具合を修正しました。

Docu-SEの主な更新一覧 (Ver. 1.1-L08⇒Ver. 1.1-L09)【2021年2月】

項番	項目	主な更新内容	
1	全体	(1)	JRSNAP (Ver. 5.1-L09) に対応するために、JRSNAPの指定フォルダ等を改修しました。
2	Batch	(1)	JRSNAPのオプション機能「任意スペクトルによる応答塑性率算定ツール」 (Aspect-SE) による応答塑性率を取り込めるように改修しました。
3	Detail JRSNAPとの連携	(1)	【Output-JR側の改修】 断面力図の出力において、印刷フローを選択（ケース毎または種別毎）できるように仕様を改修しました。 現状では、ケースを連続して出力すると各種別毎の断面力図（例えばM図）が連続して出力されてしまうため、ケース毎の断面力図（M図、S図、N図および変位図）を出力したい場合は、1ケース毎に操作を繰り返す必要があり、効率が悪いものとなっていました（特にJRElastic利用時）。
		(2)	【Output-JR側の改修】 断面力図の出力において、応答値の小数点以下の桁は2桁で固定となっていました。これを任意（0~2桁）に設定できるように仕様を改修しました。これにより、出力数値（応答値）が大きい場合、数値の重なり等を防ぐことができるため、帳票が見やすくなります。
		(3)	【Output-JR側の改修】 データ確認図の出力において、要素諸元関連の出力帳票を充実させました。具体的には線形部材指定時の断面諸元、固定値入力による非線形特性設定値および非線形部材の適用条件（適用する部材種別や拔出し量補正係数等）の出力帳票を追加しました。これにより、これまで入力データリストでしか確認できなかった入力項目をデータ確認図でも確認できるようになるため、データチェック時の効率向上が期待できます。
		(4)	【Output-JR側の改修】 データ確認図の出力において、節点番号と要素番号を同一軸線図上表示できるように仕様を改修しました。

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L07⇒Ver. 1.1-L08)【2020年2月】

項番	項目	主な更新内容
1		(1) JRSNAP Ver. 5.1-L08に対応しました。(JRSNAPフォルダ指定等)

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L06⇒Ver. 1.1-L07)【2019年9月】

項番	項目	主な更新内容
1		(1) JRSNAPフォルダ設定で、JRSNAPフォルダを指定しても、再度設定画面を開くと元フォルダが指定される不具合を修正しました。
	Batch	(2) 地盤の不整形性の影響を考慮した応答値の算定機能を追加しました。

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L05⇒Ver. 1.1-L06)【2019年2月】

項番	項目	主な更新内容
1	Batch	(1) 基礎照査のための回転杭の制限値をSoil-JRから連携する際に、安定レベル1の引抜き抵抗力の値が上手く入力されていない不具合を修正しました。
		(2) Soil-JRから基礎の制限値を読み込む機能について、液状化による低減係数を考慮できるように連携機能を改修しました。

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L04⇒Ver. 1.1-L05)【2018年7月】

項番	項目	主な更新内容
1	Batch	(1) 設計総括表において、部材損傷レベルの照査ステップがJRSNAPと若干異なる現象が発見されたため、その原因を調べて、JRSNAPと同じような途中結果のラウンド処理方法を採用し、同一の結果が出るように仕様を改修しました。
		(2) 部材断面の制限値の設定機能を改良し、JRSNAP中のMF カード（固定値入力による非線形特性設定）を含むデータを扱えるようになりました。
		(3) 設計標準で定められた既定の所要降伏震度スペクトルを使用しない場合について、ユーザーが決めた任意の応答塑性率を直接入力できるように、新しい機能を追加しました。
		(4) せん断部材の照査のために、下記のように、コンクリート標準以外の異なる設計基準類に準拠したせん断耐力の算定機能を体験版として追加しました。 ①鉄道総研【耐震照査の手引き】：(8.1)に準拠した逆対称曲げモーメントが作用する場合のせん断耐力 ②JR東日本【RCマニュアル】：(7.2.3.2)に準拠したせん断耐力 ③整備新幹線【設計内規】：(2.4(3))に準拠した梁・柱部材のせん断耐力
		(5) 「計算実行」で生成されたPDFの結果ファイルを速やかに再表示するために、「再表示」ボタンを追加しました。
		(6) 「計算実行」の後に生じるエラーメッセージの原因分析と対処方法を追記しました。
		(7) マニュアルの精査を行い、内容を充実しました。

Docu-SEの主な更新一覧

(Ver. 1.1-L03⇒Ver. 1.1-L04) 【2018年1月】

項 番	主 な 更 新 内 容	
1	(1)	Output-JRのデータ確認図において、Docu-SE用のワークファイル出力時にエラーが発生した不具合を修正しました。
	(2)	「新規作成」アイコン直後に「開く」を選択すると「パスの形式が無効です。」と表示され、ファイルを選択することができなかった不具合を修正しました。
	(3)	Batch 「このデータは応答変位置に達していません」というメッセージの意味を解説する文章をマニュアルに追記しました。
	(4)	画面「照査パラメータ」の「液状化指数PL」の画面構成を上から下へ順番に入力するように改良しました。